

渡邊 清治 氏

(高校29回卒)

小田原医師会会長

医療法人社団渡邊内科クリニック理事長

北里大学医学部非常勤講師



<経歴>

- 1979年 4月 北里大学医学部入学
- 1985年 3月 北里大学医学部卒業
- 1985年 4月 北里大学医学部病理学助手
- 1992年 4月 同講師
- 1995年 6月 平塚共済病院消化器内科医長、北里大学医学部非常勤講師
- 2000年 7月 渡邊内科クリニック開業（院長）
- 2002年 医療法人社団渡邊内科クリニック理事長
- 2003年 4月 小田原医師会理事
- 2011年 4月 小田原医師会副会長
- 2017年 6月 小田原医師会会長

<これまでの主な活動内容や心に残る職務上のエピソード>

小田原医師会会長に就任して3年目に新型コロナウイルス感染症の大流行が起き、医療界はその対応に追われました。毎週、深夜までいろいろな対策会議を行い、ワクチン接種から治療に至るありとあらゆる対応に取り組み眠る間もない年月を過ごしましたが、さまざまな方々との協力関係を築くことができたことが福音となりました。もうしばらく地域医療に貢献していきたいと考えています。

<高校時代はどんな学生だった？>

1年生から剣道部に所属していました。剣道は高校に入って始めたので馴染むまで大変でしたが、同学年が7人いたので大変楽しい生活でした。1年生は稽古以外はあいさつと掃除、2年生3年生はほぼ毎日昼は道場で弁当を食べ午後の授業まで入り浸っていたため、教室での思い出がほとんどありませんでした。またその頃、ブリティッシュロックにのめり込み勉学を疎かにしていたため成績は全く振るわず浪人することになりました。



<在校生・卒業生（後輩）へのメッセージ>

商家の家庭で育った私が医師を目指すきっかけとなったのは、幼少時から病弱で絶えず病院通いをする中でその恩恵に感謝し地域医療に貢献したいと思ったからでした。医療といってもその内容は多岐にわたっています。共通していることは、医療行為を通して人々の人生の役に立つことが気概であり、それが医療の質を担保する原動力になっていることだと思います。世襲に囚われず、学力や収入も医師を志す理由になるべきではありません。内科医として人生の終盤に差し掛かろうとしています。医師になったことは自身の人生にとって本当に良かったと思っています。